

5月14日、鹿角市文化の杜交流館コモッセ研修室を会場に、今年度第1回目となる市民と語る会を開催しました。

この市民と語る会は議員との意見交換を希望する団体等からテーマを設定いただき、団体等のもとへ議員が向くもので、従来の形式よりも自由に活発な意見交換を行ってもらうことを目的としています。



今回は、事前に設定いただいた「語る会の開催について」と「市議会の行政視察について」の二つをテーマに、かつの九条の会及びかつの母親連絡会の参加

者11名と議員2名を加えた13名で、各テーマについて意見を交換しました。

「語る会の開催について」では、従来の議会報告会から現在の語る会へ変更した根拠を一つ参加者数の減少を一つの理由としていたが、過去のぎかいだよりの統計・アンケート等を見てもその根拠が確認できず、この変更が幅広い市民の意見を反映した結果とは思えないという指摘や、参加者がたとえ一人であつても開催すべきであるという意見、市民と語る会と以前の議会報告会ではおもむきが異なるものであるため両方開催するべきという意見、形式を変更したことで市民が申込みを行わなければ開催しないようになり、敷居が高くなっていると感じるという意見、さらに、鹿角市議会基本条例第3条1項に「議員は自らの議会活動を市民にわかりやすく説明するものとする」とあるように、議員側から積極的に報

告すべきであるとの意見も出されました。

「市議会の行政視察について」では、市民からはどういう理由でその視察地を選定し、それをどのように鹿角市政に活かすのかが不明瞭であり、報告書もそのような内容が書かれていないため記述してほしいという意見や、報告書を市民に見える場所に公開してほしいという意見が上げられました。また、視察地やテーマを選定する際、市民へアンケートを取るといふのはどうか、例えば議会報告会に参加した方にアンケートを記入してもらうことで双方で情報交換もできるのではないかと、という提案もされていました。

今回、出された意見・提案等については議会広報委員会のみならず、議会改革検討委員会でも議論し、内容に応じて議会でも取り上げ、反映させていくほか各議員への周知も行いながら、今後の市議会運営並びに市民と語る会の

開催方法の改善に向けて活用してまいります。



たくさんの意見・提案をいただきました

議員永年勤続表彰

全国市議会議長会第100回定期総会において、兎澤祐一議員が15年にわたり、市政の振興に尽くされた功績により表彰され、定例会最終日の6月24日に表彰状の伝達が行われました。



表彰を受ける兎澤祐一議員（写真右側）

編集後記

令和6年度、鹿角地域の3高校が統合され、鹿角高校がスタートしました。人口減少社会の今、鹿角市に限らず全国の、様々な分野で統合・再編が進んでいます。

私はこうした動きを、単なるなし崩し的なもので終わらせてはならないと思います。

この機会に、私たちにとって大切なものを改めて問い直し、ありたい方向に進めることが重要です。

市民の一人一人が、主体的に、当事者意識を持って地域課題に取り組むことがより一層求められています。

市民の代表として、あなたの思い、勇気、行動を率先して後押しできる鹿角市議会でありたいです。

（笹本）

議会広報委員会

委員長	金澤	大輔
副委員長	湯瀬	弘充
委員	浅石	昌敏
	湯瀬	誠喜
	笹本	真司